

1. 小松川・平井地域

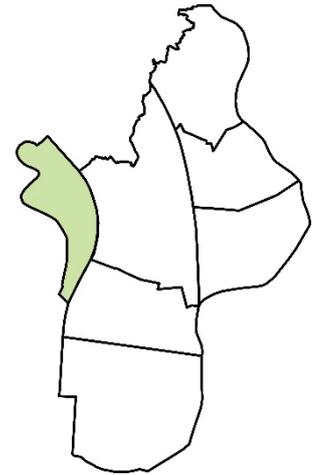
(1) 地域の概況

① 地域の成り立ち

小松川・平井地域は、区の西端に位置し、江東区、墨田区、葛飾区と隣接した、荒川・中川と旧中川に囲まれた地域です。

明治時代に平井駅が開業し、大正時代には耕地整理事業*により基盤整備や工場立地が進み、昭和初期には平井駅周辺に商店街が形成されました。戦後は区外へ工場が移転し、住宅開発が活性化するようになり、住宅が密集する市街地へと変わりました。小松川地区では、市街地再開発事業により、大規模な住宅団地や大島小松川公園が整備されました。平井地区は、早くに商業が発展した地区であり建築物の老朽化などが進んでいますが、補助第120号線や公共インフラ整備、駅前地区での共同建替えなどが実施されました。また、地域内には、平井聖天や平井の渡し、荒川ロックゲート、寺社集積など、歴史を感じる資源が点在し、約1,000本の桜（小松川千本桜）が植栽された荒川の河川景観や、自然に配慮して整備された旧中川の自然環境、道路整備に合わせて植栽された街路樹など、みどりが豊富に整備されています。

現在は、平井駅周辺において、商業の活性化や新たな賑わいの創出に向けたまちづくりが進展しています。

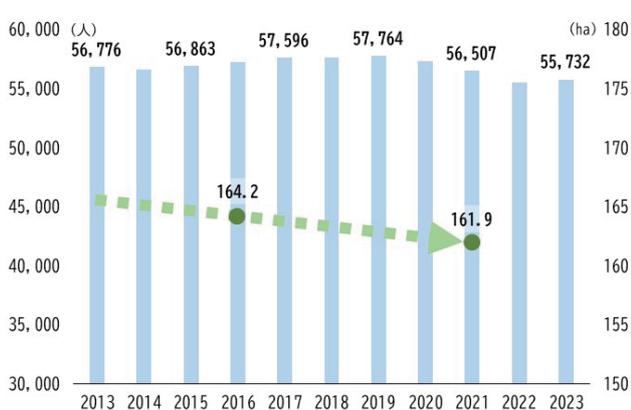


② 人口・世帯

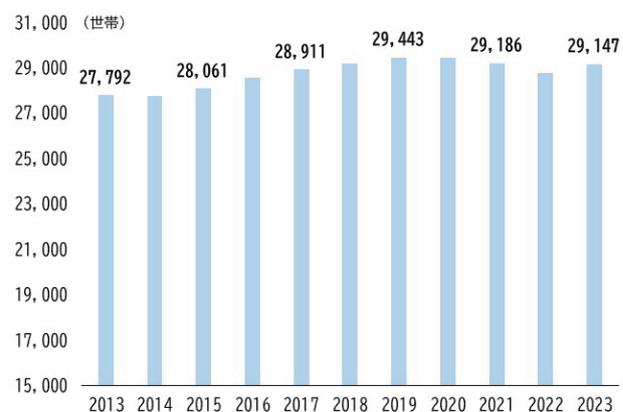
人口は、令和元(2019)年までは微増の傾向にありましたが、その後減少に転じ、令和5(2023)年には55,732人となっています。ピークの57,764人から約2,000人減少しています。

世帯数は、令和4(2022)年はやや減少に転じましたが、全体的には増加傾向にあり、令和5(2023)年には29,147世帯となっています。

みどりの面積は、平成28(2016)年に164.2ha、令和3(2021)年に161.9haとやや減少しています。



小松川・平井地域の人口推移と
みどりの面積 (ha)



小松川・平井地域の世帯数推移

③ 土地利用

- 市街地再開発事業によって整備された小松川地区では、集合住宅を中心とした土地利用となっています。
- 平井地区は独立住宅が中心の土地利用となっており、中小規模の工場も点在しています。
- 旧中川沿線は、大規模な工場が点在し、住工が共存する土地利用となっています。



土地利用（小松川・平井地域）
 （令和3（2021）年度区部土地利用現況調査）

④ みどりの現状

- 小松川地区には大島小松川公園などの大規模な公園が整備されており、平井地区には小規模な公園が点在しています。
- 荒川右岸全域には公園・運動場など、旧中川左岸の一部には原野・森林（葦原^{あしはら}）が広がっており、みどりのオープンスペースが豊かなエリアとなっています。
- 本地域には39園の公園があり、このうち1,000㎡未満の公園は21園（53.8%）、1,000以上2,500㎡未満の公園は7園（17.9%）、2,500㎡以上の公園は11園（28.2%）となっています。
- 本地域のみどりの目標に対する現状は以下のとおりです。

| 指 標 | 現状値 |
|------------------|-------|
| 地域のみどり率 | 44.7% |
| 区民一人あたりの公園面積（陸域） | 7.6㎡ |
| 身近な公園の充足率 | 94.4% |

※ みどり率は平成30(2018)年の数値を使用



みどりの状況（小松川・平井地域）

(2) これまでの取組

| 年 | 主な取組 |
|--------------|---|
| 明治 32(1899)年 | 総武鉄道（現JR総武線）平井駅開業 |
| 昭和 6(1931)年 | 荒川放水路開削工事竣工 |
| 昭和 47(1972)年 | 小松川運動公園開園 |
| 昭和 53(1978)年 | 都営新宿線東大島駅開業 |
| 昭和 55(1980)年 | 平井運動公園開園 亀戸・大島・小松川地区の市街地再開発事業に着手（完了） |
| 平成 2(1990)年 | 小松川地区の高規格堤防整備着手（完了） |
| 平成 9(1997)年 | 大島小松川公園開園 平井七丁目地区の高規格堤防整備着手（完了） |
| 平成 15(2003)年 | 小松川千本桜完成 下平井水辺の楽校登録 |
| 平成 17(2005)年 | 荒川ロックゲート完成 |
| 平成 23(2011)年 | 旧中川の護岸整備が完了 |
| 平成 30(2018)年 | 旧中川のカヌー体験教室開催 |
| 令和 3(2021)年 | 旧中川カヌーツーリング開催 |

(3) 魅力と課題

① 魅力

【豊かな水辺とみどり】

- 小松川・平井地域は、河川に囲まれ、大規模な河川緑地が広がっており、豊かな水辺とみどりに囲まれた地域となっています。
- 荒川の高規格堤防上の広場には、小松川千本桜が整備され、桜以外にも四季折々の花々が楽しめます。さらに、「小松川千本桜を愛する会」をはじめ、市民団体による活動が活発になっています。
- 市街地再開発事業によって新しいまちなみとなったエリアでは、街路樹や敷地内への植栽など、豊かなみどりが計画的に配置されています。
- 本地域は、荒川・中川と旧中川の貴重な水辺空間に囲まれていることや、大規模な公園整備、まちづくりと一体となったみどりの整備などがなされていることから、エコロジカルネットワークが形成され、旧中川ではカワセミの営巣が確認されるなど貴重な生物種が生息しています。河川敷やビオトープでは、そのような生物を観察することができます。

【スポーツ・レクリエーション】

- 大島小松川公園は、旧中川・荒川との一体性により、地域住民にうるおいや安らぎを与えるとともに、スポーツ・レクリエーションを楽しめる空間となっています。
- 平井運動公園・小松川運動公園は荒川河川敷を活かして整備された公園であり、野球場や少年サッカー場、ソフトボール場などがあり、自然の中でスポーツを楽しむ環境が整っています。
- 旧中川は護岸整備により親水性が向上し、近年は旧中川ボートフェスティバルやカヌー体験教室が開催されるなど、水辺利用による賑わいが創出されています。

【魅力ある歴史資源】

- 平井地区は、古くにまちが形成されたため、旧道や寺社など多くの歴史資源があります。そのような歴史資源とみどりが融合した、地域ならではの景観がみられます。

② 課題

【都市基盤整備、防災への配慮】

- 小松川地区は、市街地再開発事業により、大規模公園や水辺空間などが整備されていますが、特に平井地区の密集市街地では、小規模な公園などは点在しているものの、十分なオープンスペースが確保できていない状況です。また、細街路の多い既成市街地では、まちづくりに合わせて、防災の視点からグリーンインフラなどによるみどりの充実が必要です。
- 平井駅周辺は、地区の拠点として賑わいの創出が求められるとともに、駅前にふさわしいオープンスペースやみどりの確保を進める必要があります。



平井駅北口



平井親和会商店街

【多様な生物種の保全】

- 地域内には大規模公園や河川緑地があるものの、まちなかには生物多様性拠点となるような場所が少ない状況です。また、多様な生物種が確認されているものの、外来種も多いことから、ウラギクなど、現在確認されている重要種や貴重な在来種を守っていくことが必要です。



小松川千本桜



旧中川

(4) 地域の将来像と方針

① 将来像

新旧のまちを大河川に咲く桜が繋ぐ水辺豊かなまち

② 方針

◆都市基盤を活かした水とみどりのネットワーク拡充

- 平井地区では、まちづくりに合わせて、防災に寄与するみどりを充実させます。また、駅周辺は地域のみどりの拠点・地域の玄関口として魅力的なみどりの景観形成を進め、賑わいを創出します。
- 蔵前橋通り、京葉道路、ゆりのき橋通りなど、幹線道路の街路樹を活かしたみどりのネットワーク整備を推進します。
- 旧道や寺社などの多くの歴史資源とみどりを融合させた環境づくりを進めます。

◆公園の有効活用

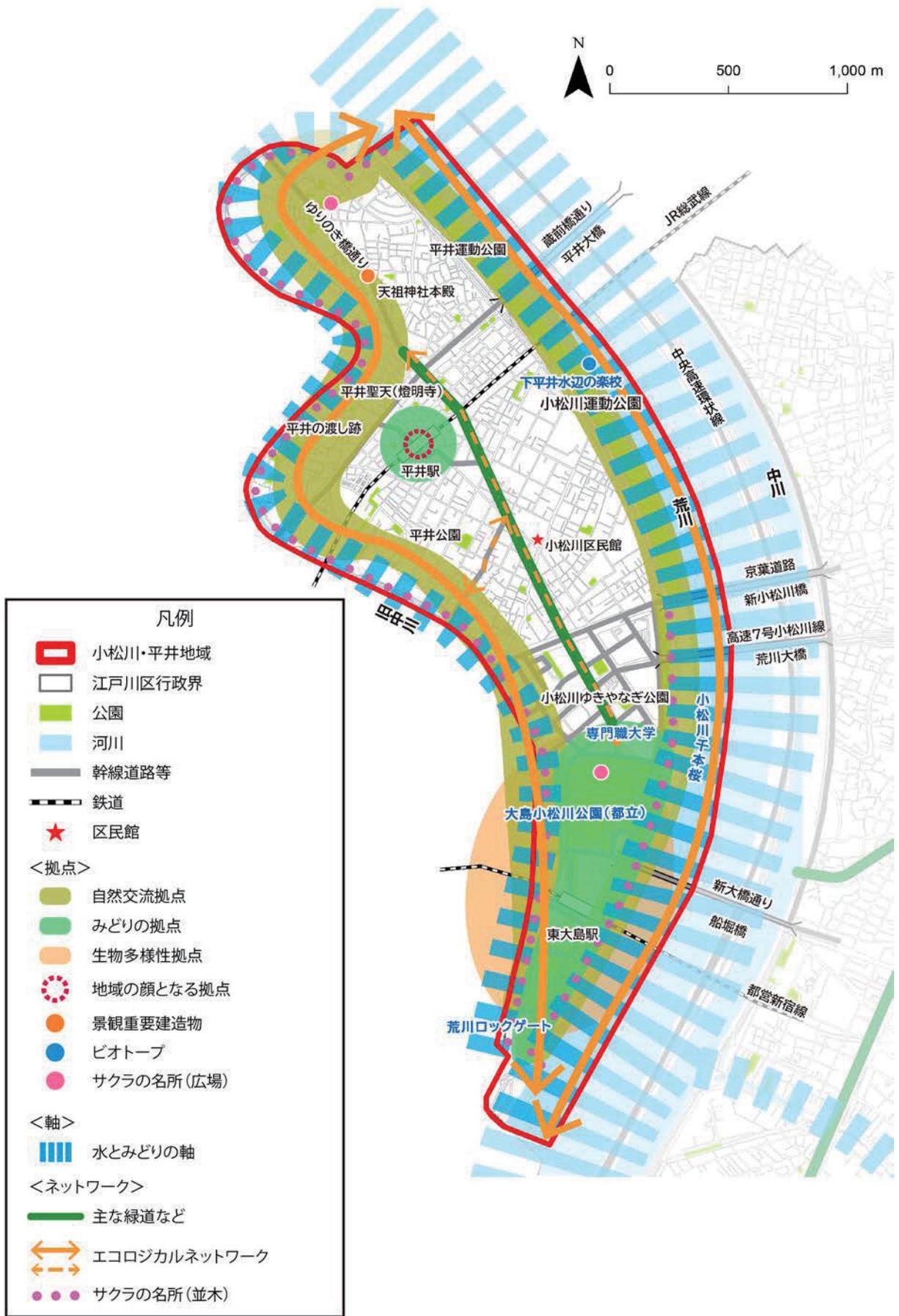
- 大島小松川公園をみどりの拠点と位置づけ、地域住民のレクリエーションの場や、生物多様性拠点としての拡充を図ります。
- 平井公園や小松川ゆきやなぎ公園など比較的規模の大きな公園は、ボランティア活動やイベント会場となるなどコミュニティ拠点としての役割を担っています。また、「小松川千本桜を愛する会」などの団体と、引き続き協働していきます。今後もこれらの拠点を中心として、地域全体にみどりの運動を広げていきます。

◆河川や公園を活用した生物多様性の保全

- 荒川・中川、旧中川、補助第 120 号線をエコロジカルネットワーク、大島小松川公園を生物多様性拠点として位置づけ、エリア特性に応じた生物多様性の保全を行います。
- 身近な公園の整備を行う際は、まちなかの生物多様性拠点となるように配慮し、整備を推進します。
- 自然に配慮して整備された旧中川では自然環境が再生されており、引き続き保全・育成していきます。
- 荒川河川敷では、干潟や^{あしはら}葦原など自然環境保全を引き続き行っていきます。また、下平井水辺の楽校や専門職大学など、自然環境保全とともに環境学習の場として活用できる拠点を拡充していき、意識啓発などに努めます。

◆豊かな水辺空間を活かした環境づくり

- 荒川河川敷などの豊かな水辺空間では、スポーツやレクリエーション機能の充実や河川景観の向上を図ります。
- 水辺空間の活用として、旧中川ではカヌー体験教室が開催されています。このような取組を拡大させ、水辺に親しめる機会を充実させていきます。



みどりと生物多様性の方針図(小松川・平井地域)